

## 第15回ジュニア・ロースクールを開催して

法教育委員会 戸村祥子

### 1 はじめに

法教育委員会では、2025年8月20日（水）、和歌山地方裁判所及び和歌山地方検察庁のご協力のもと、和歌山県下の高校生を対象として第15回ジュニアロースクールを開催しました。このジュニアロースクールは、法教育委員会が毎年開催しているイベントで、参加していただく高校生の皆さんに、論理的なものの見方や考え方を理解し、自らの考えを相手や第三者に伝えることを実践、体験していただくことを目的としています。

今年も46名もの応募があり、当日欠席を除く、43名の生徒さんに参加いただくことができました。

### 2 模擬裁判の内容

毎年、刑事模擬裁判を題材として取り扱っており、今回のジュニアロースクールのテーマは、ずばり万引き事案。過去には殺人事件や放火事件などを取り扱ってきましたが、登場人物が多く、証拠関係も複雑であったため、もっと身近でシンプルな事案の方が良いのではないかということで、今回、新たな題材を取り扱うことにしました。

被害者は書店の店主。手に数冊のコミックを持って周りをきょろきょろと見回す不審な男性が、その右手を肩に掛けていたトートバッグの中に入れていたのを目撃します。「あ、万引きしたな」と思った店主が足早に男性に近づき、右腕を掴んだところ、慌てて立ち去ろうとした男性と引っ張りあいのような形になったはずみにトートバッグからビニール包装されたコミック5冊が…。奇しくもそれらは前日に店主が確認した際に在庫が不足していたコミックと一致しています。ところが男性は、「これは前日に別の本屋で買ったものだ！」と主張します。ただ、昨夜は泥酔していたため、どこでこれらのコミックを購入したのか、まったく記憶しておらず、レシートも残っていないとのこと。

果たして真犯人はこの男性なのか、真実はいかに！？

### 3 審理に臨む

模擬裁判では、裁判官、検察官、弁護士、証人、被告人役すべてを弁

護士が行います。皆さん、シナリオに沿いつつも自然な様子を生徒さんに見せようと、できる限り頑張ってシナリオを見ずに演技をしてもらっていました。

冒頭陳述に始まり、証人である店主の尋問、被告人質問、そして論告弁論と手続きは進んでいきます。生徒の皆さんは、証人や被告人の発言に熱心に耳を傾けながら、捜査報告書と照らし合わせてみたり、注意深くその信用性を検討していました。

午前中の審理が終わったら、午後からの補充質問に向けて、チームごとにチューターとともに事案を検討します（模擬裁判ならではの、たまに検察官や弁護人に質問が飛んでくることがあるのが面白いところです）。お昼ごはんも食べ、パワーをチャージした生徒さんからは、中々鋭い補充質問が飛び出しました。今回被告人は、事件当日に書店でコミックを手取るまで、自身が所持するトートバッグ内に前日購入したコミックが入ったままになっていることを忘れていた、と主張しています。それに関連して、「普段トートバッグには何を入れているのか」「重さに違いを感じなかったのか」「書店につくまで一度もバッグの中を確認しなかったのか」などなど、被告人役の委員もたじたじの質問が飛び出しました。

#### 4 有罪、無罪の検討のための評議へ

こうした補充質問を経て、いよいよ各チームに分かれて評議へと入っていきます。法廷で、そして補充質問で聞いた当事者の言い分や、客観証拠からどのような事実が認定できるのか検討していきます。そうして認定した各事実が、有罪、無罪どちらを支える根拠となるのか、検察官・弁護人それぞれの主張を踏まえながら、約2時間にわたって議論を交わしました。チューター以外の委員は、各チームの評議の様子を見て回れるのですが、当初は無罪派だった生徒さんが、議論を経て有罪派に変わったり、あるいはその逆もあって、生徒さんたちが他の人の意見にもしっかりと耳を傾けて自分なりに咀嚼して、柔軟に考えている様子が間近で感じられる時間となりました。

#### 5 判決言渡し

そして、いよいよ判決言渡しへ。このときばかりは裁判長役を各チームから1人選び、裁判長が証言台の前に座った被告人に判決とその

理由を厳かに言い渡します。中々皆さん、堂に入った様子でしたよ。

結論は、有罪が1チーム、無罪が2チーム。満場一致で結論を出したチームはなく、チーム内で十分に議論した結果、多数決を行って判決を出したところばかりでした。

## 6 チューター役からの講評、そして法曹三者のお仕事紹介

判決言渡し後は、チューター役の裁判官、検察官、弁護士から、それぞれのチーム内における検討内容や判断などに関するコメントを述べてもらいました。どのチームも各証拠から事案の概要を正確に把握し、検討すべきポイントをしっかりとつかむことができていました。同じ事実でも、見方によっては評価が異なることも意識しつつ、他の参加者の意見も聞き、各々が検討を深めてチーム全体としてとてもレベルの高い議論ができていたようです。

その後は法曹三者のお仕事紹介のコーナーへ。裁判官、検察官、弁護士からそれぞれ、経歴や志望動機、1日のスケジュールや休日の過ごし方など、ざっくばらんにお話していただきました。今回、ジュニアロースクールに参加してくれた生徒さんの約半数が、法曹の仕事に興味があったから参加表明をしたとのことでしたが、事後のアンケートでは、参加したことでより法曹という仕事への関心が高まったとのコメントもあり、主催者側としては嬉しい限りでした。

## 7 最後に

参加した生徒さんからは、物の見方の多様さを学ぶ機会になった、将来、弁護士を目指したいと思ったなど、たくさんの意見・感想をいただきました。今回のイベントが少しでも、高校生の皆さんが法律や法曹に興味を持つきっかけとなってくれば大変嬉しく思います。

次年度もぜひ、たくさんの参加をお待ちしています。